

令和7年8月8日

各位

トモニホールディングスグループの令和8年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和8年3月期第1四半期（令和7年4月1日～令和7年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：有木 浩）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

（1）令和8年3月期第1四半期（令和7年4月1日～令和7年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金が減少したものの貸出金利息の増加により資金運用収益が増加したこと等により、前年同期比986百万円増加して23,530百万円となりました。経常費用は、外貨調達に伴う外国為替売買損及び国債等債券売却損の減少によりその他業務費用が減少したものの、預金利息の増加により資金調達費用が増加したこと等により、前年同期比161百万円増加して16,320百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比826百万円増加して7,210百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比648百万円増加して5,244百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比511億円増加して5兆857億円、純資産は、前年度末比56億円増加して2,896億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比311億円増加して4兆5,754億円、貸出金残高は、前年度末比338億円増加して3兆7,236億円、有価証券残高は、前年度末比242億円増加して7,594億円となりました。

		令和8年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	23,530百万円	986百万円
	経常費用	16,320百万円	161百万円
	経常利益	7,210百万円	826百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	5,244百万円	648百万円
		令和8年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	50,857億円	511億円
	純資産	2,896億円	56億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	45,754億円	311億円
	貸出金	37,236億円	338億円
	有価証券	7,594億円	242億円
	自己資本比率（国内基準）	9.54%	0.08%

（2）令和8年3月期（令和7年4月1日～令和8年3月31日）連結業績予想

令和7年5月13日に公表しております令和8年3月期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和8年3月期第1四半期（令和7年4月1日～令和7年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息が増加したこと等により、前年同期比128百万円増加して12,566百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外貨調達に伴う外国為替売買損の減少等により、前年同期比612百万円増加して8,587百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比536百万円増加して3,944百万円となりました。

経常利益は、上記要因に加え、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,205百万円増加して4,278百万円となり、四半期純利益は、前年同期比789百万円増加して2,925百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・公金預金の増加等により、前年度末比548億円増加して2兆5,176億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比634億円増加して2兆6,778億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比91億円増加して2兆417億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.67%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比315百万円減少して33,254百万円、総与信に占める割合は1.60%となりました。

		令和8年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	12,566百万円	128百万円
	コア業務粗利益	8,587百万円	612百万円
	コア業務純益	3,944百万円	536百万円
	経常利益	4,278百万円	1,205百万円
	四半期純利益	2,925百万円	789百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	2,426百万円	302百万円
	与信関連費用	10百万円	△347百万円
		令和8年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	27,578億円	677億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	25,176億円	548億円
	総預り資産	26,778億円	634億円
	貸出金	20,417億円	91億円
	有価証券	4,095億円	212億円
	自己資本比率（国内基準）	8.67%	0.05%
	金融再生法開示債権額	33,254百万円	△315百万円
不良債権	総与信に占める割合	1.60%	△0.02%

3. 香川銀行

(1) 令和8年3月期第1四半期（令和7年4月1日～令和7年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息が増加したこと等により、前年同期比580百万円増加して9,257百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外貨調達に伴う外国為替売買損の減少等により、前年同期比107百万円増加して6,914百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が増加したこと等により、前年同期比19百万円減少して3,118百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比402百万円減少して2,770百万円となり、四半期純利益は、前年同期比87百万円減少して2,243百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加したものの、譲渡性預金及び公金預金の減少により、前年度末比235億円減少して2兆652億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比187億円減少して2兆2,163億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比241億円増加して1兆6,896億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は10.18%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比2,183百万円増加して34,407百万円、総与信に占める割合は1.98%となりました。

		令和8年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	9,257百万円	580百万円
	コア業務粗利益	6,914百万円	107百万円
	コア業務純益	3,118百万円	△19百万円
	経常利益	2,770百万円	△402百万円
	四半期純利益	2,243百万円	△87百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	2,043百万円	124百万円
	与信関連費用	371百万円	520百万円
		令和8年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	23,171億円	△173億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	20,652億円	△235億円
	総預り資産	22,163億円	△187億円
	貸出金	16,896億円	241億円
	有価証券	3,484億円	29億円
	自己資本比率（国内基準）	10.18%	0.11%
不良債権	金融再生法開示債権額	34,407百万円	2,183百万円
	総与信に占める割合	1.98%	0.10%

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132